

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

## 還暦を迎えて

On the occasion of the 60th birthday

谷畑 弘之

昨年1月に還暦を迎えた。還暦は節目だと漠然と思っていたが、実際に経験してみると、人生の変わり目だと言った昔の人の言葉は間違いではないと感心する。若いころは自分が還暦を迎えるなど想像もしなかったが、いざ現実に60歳を迎えると不思議な気持ちだ。30代は子育てに夢中であつたが、今のように男性が育児休暇を取ることもままならず、妻に頼ることが多かった。2人の子どもを育てたが、今年4月には次男が社会人になる。この歳にしてようやく肩の荷が下りるのを実感している。一方で、昨春、高齢の母が施設に入った。同じ富山市内で1人暮らしをしていたが、転倒する頻度が多くなったことが、私たちに施設入所を決意させた。母が体を痛めたとき数日介護をしたが、とても私たちの手に負える感じではなかった。地域の支援センターに相談して病院を紹介してもらい、2か月間のリハビリ入院を経て、そのまま施設に入った。現在は、月に1度の面会で元気な姿を見せており、食事もしっかり摂れているので、安心している。

かつて還暦は定年退職の年齢だったが、弊社では徐々に延長され、2022年3月には65歳定年の制度を完全に撤廃した。退職時期は自分で決める制度のため、私は今もまだ正社員である。昨年4月、社内の役割見直しにより、思いもよらぬ辞令を受けた。現在建設中のYKK AP技術館の初代館長という大役である。YKK AP株式会社はYKK株式会社のグループ会社である。YKK株式会社はファスナーの会社であり、YKK AP株式会社は、YKK株式会社から派生し、建材部門を中心とした窓の製造および販売会社である。YKK AP技術館は、1959年に竣工したアルミ溶解押出工場をリノベーションした建物で、建材事業創業の土地でYKK APのモノづくりと技術への挑戦の歴史をたどり、更なる未来への成長につなげることをコンセプトにした施設だ。過去にさかのぼって調べると、私が博士号の学位を頂いた富山大学の故室町教授と故多々名誉教授が、若かりしころにこの工場ではアルミの材料研究をされていたことを知ることができた。軽金属学会誌にその論文が掲載されており<sup>1)</sup>、当時の押出機の写真を見ると非常に運命的なものを感じる。このエッセイが掲載されるころにはYKK AP技術館は完成している予定なので、興味のある方は、ぜひ富山県黒部市まで足を運んでいただくと嬉しい。ご来館を心よりお待ちしております。



YKK AP技術館のイメージ図

1) 室町繁雄, 多々静夫: 軽金属, 16 (1966), 182.

## 旧姓が銀行でも使えればいいのに

I wish I could use my birth name for a bank account

高松 聖美

結婚して、しばらく経ちます。結婚に際して、男女共同参画委員会ならびに女性会員の会ではいろいろなことを相談させていただきました。話題は大きく2つあり、ひとつは苗字をどうするか、もうひとつは出産がいつであるべきか、です。出産はまだ関係ないですが、苗字に関して話したいことがあるので、今回筆を執ることにしました。

著者名の高松は、旧姓です。結婚前、私は苗字を変えたくありませんでした。ひとりっ子だから苗字を残さず、という使命感や、ハシゴダカがかっこいい、など、理由はいくつもありますが、なによりも「私が高松聖美でなくなるのは、嫌」だったからです。ではなぜ苗字を変えたかという、「研究を続ける限りは高松を名乗ることができるから」に尽きます。最近では、どこでも通称名使用が認められていると聞きます。それもあって「戸籍の苗字が変わるくらい、いいか」と思うことができました。今のところは「高松さん」と呼ばれることのほうが多いです、私はそれで大変満足です。

苗字を変えると、さまざまなもの名義変更をしないといけません。私の場合、印鑑3つ、銀行口座4つ、クレジットカード3枚、自動車運転免許、マイナンバーカード、パスポート、スマホの契約、雇用書類、病院4か所、保険などなど……の名義を変える必要がありました。貴重な平日昼間の時間が奪われ、これには本当に辟易しました。

最近、選択的夫婦別姓制度が検討されているようです。苗字選択の自由が増えるという点では良いことだと思います。しかし、同姓を望んだカップルの苗字を変えた側に対して、「望んで苗字を変えたのだから、旧姓を使うことは一切認めません」とならないことを祈るばかりです。また、制度の行く末によらず、旧姓を広く使うことができるようになってほしいものです。銀行口座を旧姓のまま使うことができれば、これから結婚する人たちが面倒な思いをしなくて済むのになあ、と日々考えています。ただ、こればかりは私がどうできる話ではありません。多くの方が旧姓利用や選択的別姓制度に賛同することで、このような未来が来ることを願っています。

写真は、結婚に関連して、博士3年次に挙げた結婚式での1枚です。余談ですが、式に向けてダイエットをしたところ、先生方から「博論のストレスで痩せたんじゃないか」と心配していただきました。それだけダイエットが成功したということ



結婚式での鏡開きの様子で、大変誇りです。